

平成30年度第2回高知西病院地域協議会 議事概要

【構 成 員】	(行政)	清水 貴也	(高知県健康政策部医療政策課 課長)
		寺尾 倫彦	(高知市健康福祉部地域保健課 課長)
(医師会)	野並 誠二	(高知県医師会 副会長)	
	藤井 貴章	(高知市医師会 理事)	
(関係医療機関)	大串 文隆	(国立病院機構高知病院 院長)	
(利用者)	土居 怜子		
(高知西病院)	山田 光俊	(院長)	
	梶谷 充	(副院長)	
	中路 達也	(事務長)	
	浅野 実香	(総看護師長)	
	川村 佐知	(副総看護師長)	

【開催日時】 平成31年3月7日(木) 13:00~14:00

【開催場所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院 健康管理センター1階小会議室

- 【議 題】
1. 当院運営実績(経営状況)について
 2. 平成31年度計画について
 3. 看護部門の活動状況について
 4. 地域包括ケア推進室の取り組みについて
 5. その他

- 【出席者】
- | | |
|----------|---|
| (行政) | 高知県医療政策課・松岡課長補佐(代理出席)
高知市地域保健課・寺尾課長 |
| (医師会) | 高知県医師会・野並副会長、高知市医師会・藤井理事 |
| (関係医療機関) | 国立病院機構高知病院・大串院長 |
| (利用者) | 土居 怜子 |
| (高知西病院) | 山田院長、梶谷副院長、中路事務長、浅野総看護師長、
川村副総看護師長、仲西事務長補佐(総務企画) |

【概 要】

1. 当院運営実績(経営状況)について

平成31年3月1日現在の病院運営状況(施設基準届出状況、職員数、患者数・健診運営状況(H31.2月迄)、収支状況(H31.1月迄)等)について説明する。

【質疑応答】

- ・採用は病院ごとに実施されるのか。
→ 看護師は病院採用ですが、コメディカルについては地区での採用になります。
- ・病院間の異動もありますか。
→ あります。

2. 平成31年度計画について

平成31年度計画（施設概要（診療科、病床数）、経営方針・取り組み事項、経常収益・経常費用見込み及び平成30年度の経営状況・今後の課題）について説明する。

経営方針・取り組み事項として、患者数確保のうえ新規施設基準届及びブラッドアクセスセンター運営に伴う手術件数増による診療単価増に取り組むとともに、病院本館建替えの設計実施及び電子カルテ導入準備を進めていくことを報告する。

【質疑応答】

- ・病院建替えについて、現在の手持ち資金は。
 - 約5億円になります。毎月の減価償却費と同じ額を積立せていく方針になっており、（年間約1億の積立てがあるため）5年間で5億となります。
- ・JCHO本部から、5億は必要と言われているのですか。
 - 原則、総工費の約20%の自己資金が必要であると言われていました。
- ・（病院より質問）建物の構造について、高知県で耐震・免震における決まりはありますか。
 - 病院の規模等によって様々な問題があるため、一律の決まりはありません。また、補助金制度においても、免震でないといけないということはなかったと思われます。
- ・建物の構造以外についても、災害対応として発電機や透析をされる場合の水の問題などがありますので、基本設計の際に検討していただくようお願いします。
 - 了解しました。

3. 看護部門の活動状況について

高知西病院看護課の平成30年度の新たな取り組み状況について説明する。

○チーム活動（災害看護チーム・入退院支援チームの発足）、質向上の取り組み（訪問看護・特定行為研修）及び家族の在宅生活の不安を軽減することを目的とした「ミニ健康教室」の開催他。

4. 地域包括ケア推進の取り組みについて

10月27日に国立高知病院機構高知病院 大串院長に講演をしていただいた「第3回JCHO高知西病院地域包括ケア推進連携連絡会」及び地域の医療機関を招いての講演会「神田川セミナー」を2回開催するとともに、地域住民に対しての健康教室（第20回）を1月17日に開催。32名の方が参加され、充実した内容で開催出来ているため、今後も地域住民の方々を中心とした内容で、40回を目指して実施していくことを報告する。

5. その他（ご意見等）

- ・高知市内救護病院を中心とした23病院において、災害時必要となるMCA無線や衛星携帯電話を使った通話やメールの送受信を行う情報伝達訓練を年間10回実施しておりますが、高知西病院の参加率は低いようですので、参加をお願いしたい。
 - 今後は、積極的に参加させていただきます。
- ・高知県の二次救急体制（二次救急が弱くなっていること）について、現場（病院）のご意見をいただきたい。
 - 当初は二次救急が中心となり頑張ることになっていたが、マンパワー不足等により三次救急が頑張っており、二次救急はバックアップ的な役割になっている。現場の状況（スタッフの体制等）により局面が変わるのはやむを得ないが、地域を支えるうえで、二次救急は重要であり果たす役割は少なからずあると思われます。
- ・6階透析室に食事を取る場所を設けてほしい。
 - 検討します。